

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 640 号	氏名	山下 裕美
学位審査委員	主査	鮎瀬 卓郎	
	副査	梅田 正博	
	副査	真鍋 義孝	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、痛みの情動系に関与する重要な部位である前帯状回に注目し、持続的なストレスが前帯状回ニューロン活動にどのような影響を及ぼすのかを明らかにしようとしたもので、研究目的として妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 脳定位装置にラットを固定し座標軸を設定し、タングステン微小電極を刺入して前帯状回ニューロンからの電気信号を記録している。実験終了後は、脳を摘出しホルマリン固定後に記録部位の同定を行っている。また記録時は、バルビツール酸系催眠薬を用いて手術時の苦痛を除去し実験動物への配慮を行っている。また、適切な統計学解析も行われており研究手法は妥当である。</p> <p>3 解析・考察の結果 上記手法で解析した結果、尾部において7日間の金網拘束ストレスで前帯状回ニューロンの興奮性侵害受容性応答の有意な増加を認めた。これは、前帯状回から中脳中心灰白質へ向かう下行性鎮痛系の脱抑制が起こり末梢で痛覚が増強する可能性が示唆された。これらの研究結果と考察内容は痛みを伴う疾患や、放射線治療による口腔粘膜炎に起因した痛みなど、治療に伴う痛みを緩和していくうえでの基礎データとして大きく貢献するものと期待される。</p> <p>以上のように本論文は、前帯状回のニューロン活動の研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（歯学）の学位に値するものと判断した。</p>			